

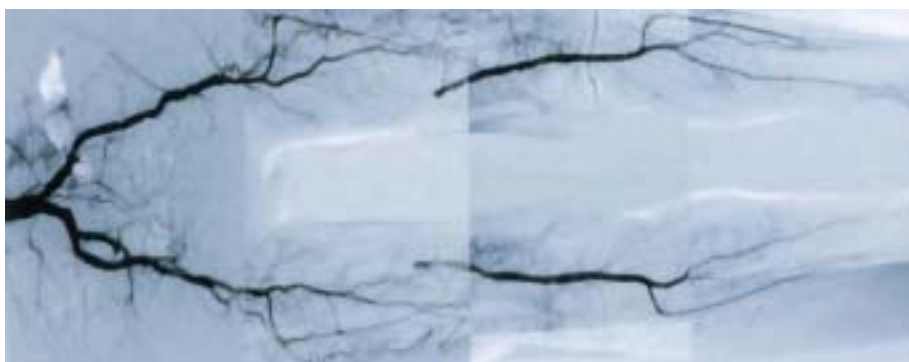
## 《 血管撮影装置を更新しました 》

9月より血管撮影装置が東芝 X線循環器診断システム「INFX-8000C」に更新されました。ますます高度化、複雑化するPCI テクニック、新たなデバイスの登場で複雑な病変にアプローチする機会も増えつつあります。こうしたPCIの現場で鮮明画像によるすばやい病変の確認が出来る様になり、ストレスのない心臓カテーテル検査、治療が出来るようになりました。特に今度の装置はフラットパネルの導入により初期輝度が落ちにくく、四隅までゆがみのないハレーションの少ない高精細画像で術者を支援出来るようになりました。患者さんの被曝はこれまで時間と撮影枚数で推測していましたが面積線量計の導入により、リアルタイムでわかるようになりました。



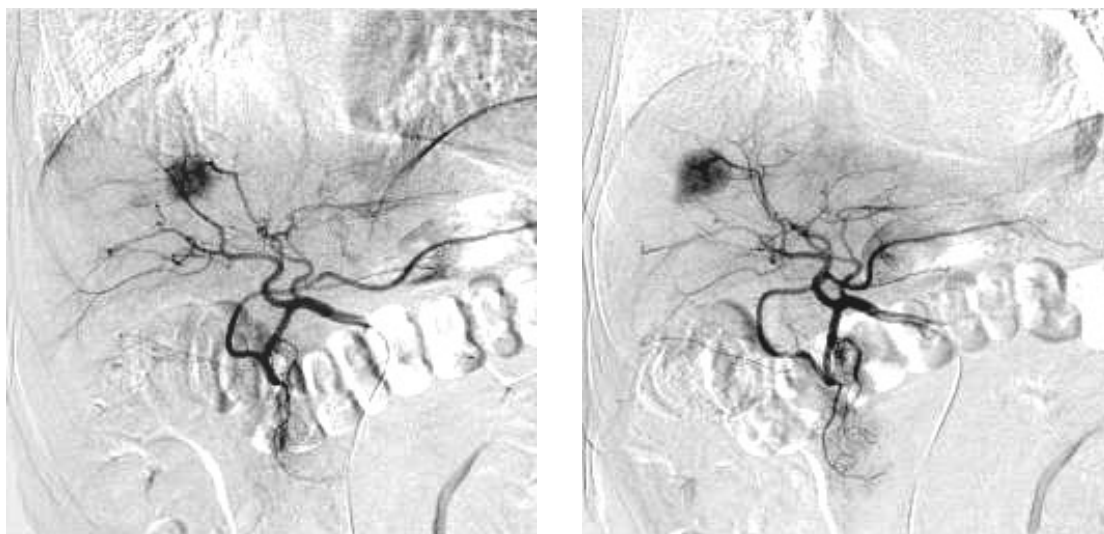
### ステッピング DSA

1回の造影剤注入で下肢血管全体の DSA 撮影が可能になりました。少ない造影剤で広範囲の診断情報がすばやく、高精度に得られます。



## 回転 DSA

40° /S の高速回転 DSA 撮影によって、短時間に的確に動脈相をとらえ、造影剤の使用量低減を実現します。動きの少ないところ、息止めの出来る人に使用します。



## 3D-Angio

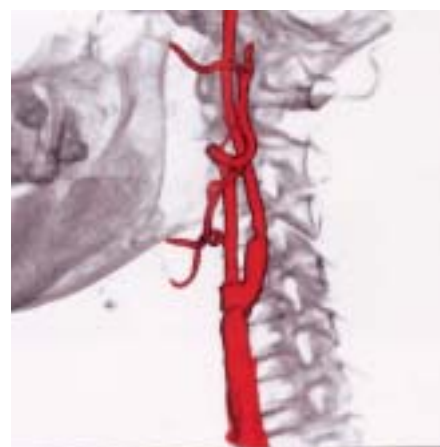
高速回転収集された画像は、3D ワークステーション上で3次元構成処理することで、3D-Angio 画像へと生まれ変わります。この3D-Angio 画像は1回の造影では判断が困難だった多発性動脈瘤なども、360°の自由な視点から観察可能で、動脈瘤の形状や複雑に分岐する微細血管と動脈瘤との位置関係も、より正確に把握することが出来ます。頭部血管に使用します。



## 回転 DA 画像からの 3D 再構成

回転 DA 撮影は、短時間で撮影できるため体動や息止めの影響が軽減でき、より高画質の実現はもとより、患者さんに優しい撮影環境も提供します。また、骨なども同時に表示されるため CT 画像のような断層像が表示可能で、その位置関係や形状を MPR により多方向から検討できます。

最後に、高速ネットワークによって、外来や、病棟で動画観察や CT, MRI の参照画像も観察できるようになりました。CDROM で、画像を患者様に提供することも容易にできるようになりました。



先生方におかれましては、今後もお気軽に当院放射線科をご利用いただけましたら幸いです。宜しくお願いします。

**放射線科直通ダイヤル**

**0120-970-189**

〒990-8510 山形市和合町3丁目2番5号

公立学校共済組合 東北中央病院 病診連携室

電話(フリーダイヤル): 0120-703-995

FAX(フリーダイヤル): 0120-168-990